

令和 4 年 6 月 25 日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02189

研究課題名(和文) 神仏共存神話の原理に関する倫理学的研究 日本思想の基軸の解明

研究課題名(英文) An Ethical Study on the Principle of Shinto/Buddhist Coexistence Myth: Clarification of the Axis of Japanese Thought

研究代表者

上原 雅文 (Uehara, Masafumi)

神奈川大学・国際日本学部・教授

研究者番号：30330723

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：中世初頭に書かれた慈円の『愚管抄』を主な研究対象とした。慈円は、当時一般的であった本地垂迹説(神仏同体説)とは異なり、神仏を共存させる理論を構想した。そして「道理」という概念を用いて、日本の歴史の変遷と、当時のあるべき生き方を説いた。本研究は、『愚管抄』巻第七についての先行研究(注釈と現代語訳)を批判的に検討し、新たな試訳を作成してそれを公表するとともに、慈円の構想した神仏共存の理論の一端を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、従来一般的であった神仏習合理論に対して、仏教と神道とを別原理として共存させる理論の解明を行ったこと、及び、『愚管抄』巻第七についての先行研究の批判を通じて新たな注釈と現代語訳を作成したこと、の2点である。社会的意義は、諸宗教の共存・共生が希求されている現代において、神道と仏教とを融合させるのではなく共存させる理論の一端が明らかにされたことにある。それは普遍的な社会的意義を有する。

研究成果の概要(英文)：The main subject of our research is Jien's "Gukansho" written in the early medieval age. Unlike the then prevailing theory of "honji-suijyakusetsu" (the theory of the coexistence of Shintoism and Buddhism), Jien conceived of a theory of the coexistence of Shintoism and Buddhism. He also used the concept of "Dori" (principle) to explain the transition of Japanese history and the ideal way of life at that time. This study critically examined the previous studies (commentaries and modern translations) on the seventh volume of "Gukansho" prepared and published a new trial translation, and clarified one aspect of Jien's theory of the coexistence of Shintoism and Buddhism.

研究分野：倫理学・日本倫理思想史

キーワード：『愚管抄』 慈円 神仏習合 神仏共存 仏教 神道 現存

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 西洋の倫理学がギリシア哲学やキリスト教などの伝統思想の批判的継承を通じて新たな理論を構築してきたことと同様に、日本での倫理学研究においても、日本を含む東洋の伝統的倫理観の批判的継承が不可欠であることはつとに指摘されてきた。サンデルが言うように人間は共同体・伝統の「負荷」を前提に生きているからである。倫理の普遍性は、それぞれの伝統思想の批判的検討を突き合わせる先に見えてくるはずである。

(2) 日本の場合、伝統的倫理観を原理的に提示したものは数少なく、丸山真男の「座標軸（基軸）」不在についての提言（『日本の思想』1961）にもかかわらずいまだに不十分なままである。その一因に、日本の倫理思想が、神信仰・仏教・武士道・儒学といった多様な領域において歴史的に展開し、しかも重層的に蓄積されてきたという特殊状況がある。従って、多様な領域を一貫する「基軸」が見えにくいのである。

(3) 日本思想の基軸の解明につながる通史としては、和辻哲郎が『日本倫理思想史』（1952年）を著し、ひとつの基軸（献身の道徳）を提示したが、偏った内容であったと言わざるを得ない。それ以降の倫理思想の通史では、佐藤正英（連携研究者）『日本倫理思想史』（2003年、増補改訂版2012年）、清水正之『日本思想全史』（2014年）の2書しかないのが現状である。倫理思想史以外の思想史は数多く著されているが、仏教史、神道史、政治思想史などの分野別の思想史や、単なる評論的な思想史が多く、倫理思想の研究とは言えない。本研究は、様々な先行研究を踏まえた日本倫理思想の基軸の解明に寄与する研究として位置づけられる。

### 2. 研究の目的

(1) 申請時の研究計画調書には、当初の研究目的について以下のように書いた。

「日本で展開してきた多様な倫理思想を深層から捉え返し、日本思想の基軸を解明すべく、神・仏・天などの超越観念及びそれらの関係を人間の「現存」（自己が今ここに生きる在りよう）との関わりにおいて倫理的に考察する。本研究は、中世初頭に歴史の推移過程を「道理」という概念を立てることによって闡明し、日本のあるべき政治体制と人間の生き方を提示した慈円の『愚管抄』を研究対象とする。慈円は仏教を背景としつつも日本の神々の働きを位置づけているが、それは当時の本地垂迹説とは異なる独自性を持ち、世界と人間の「現存」とを意味づける“神仏共存神話”とも呼べる内容となっている。本研究の目的は、その“神話”を構築した慈円の思想構造と“神話”の原理を明らかにし、日本思想の基軸の解明のための基礎を提供することにある。」

(2) 研究の具体的な目的としたのは、①『愚管抄』本文の確定・現代語訳・索引作成、②慈円の思想構造の解明、③『愚管抄』に描かれた“神仏共存神話”の解明、の3点であった。

①においては写本の蒐集と『愚管抄』全体を扱うこととしていた。②においては僧としての慈円の成仏を目指す超俗的な志向と、歴史的現実の世俗救済志向との矛盾的思想構造を、法然とその門流、西行、明恵の思想との比較考察を通じて解明することとしていた。また『今昔物語集』をその思潮の先駆として捉え、天竺部で語られた釈迦仏観を解明することとしていた。③においては、当時一般的であった本地垂迹説（神仏融合的な習合思想）とは異なった、神仏を別原理として立てつつ共存させる思想構造を解明することとしていた。

### 3. 研究の方法

(1) 古代神道、仏教思想、神仏習合思想、中世神道、本地物語、武士道等、研究全体に必要な資料・文献を、先行研究文献も含めて蒐集する。

(2) 共同研究①：『愚管抄』の諸写本及び本文研究に関する文献を蒐集し、本文を確定する。

(3) 共同研究②：『愚管抄』を詳細に読解すべく、注釈と現代語訳（先行研究の注釈と現代語訳の批判的検討）・索引作成を分担して行い、その報告と議論を行う研究会を年2回開催する。

(4) 分担研究：『今昔物語集』の読解、中世神道や本地物語などの中世神話テキスト群の読解・比較研究、法然・証空・親鸞・西行・明恵など同時代の思想家との比較研究などは、メンバーの専門分野に応じて分担し、研究会で報告し議論する。

(5) 現地調査：比叡山周辺の慈円の修行・儀礼の地を調査し、叡山文庫でも資料蒐集を行う。

#### 4. 研究成果

以下、上記「2. 研究の目的」(2)の①～③に対応させて、(1)～(3)で記述する。

##### (1) 『愚管抄』本文の確定・現代語訳・索引作成

期間全体を通して、『愚管抄』巻第七のみを扱った。巻第一・二、四～六については、今後の課題としたい。写本の蒐集が遅れ、巻第七の本文確定の作業に反映できなかったため、これも今後の課題としたい。写本研究では、新たな写本の蒐集をもとに『愚管抄』の本文確定の研究を行っている坂口太郎の研究成果（坂口太郎『『愚管抄』校訂私考』、『古代文化』平成28年9月30日、pp.50-70）が参考になったが、本研究で対象とした巻第七についての新たな本文確定の情報は得られなかった。

巻第七の注釈・現代語訳は、まず『日本古典文学大系 愚管抄』（岩波書店、昭和42（1967）年、底本は島原本）の本文を主な検討対象とし、黒坂勝美編輯『新訂増補國史大系 第十九巻』（吉川弘文館、昭和5（1930）年）、中島悦次著『愚管抄全註解』（有精堂、昭和44（1969）年）、丸山二郎校註『愚管抄』（岩波書店（文庫）、昭和24（1949）年）の3書の本文との校異を行った。これにより、本文が確定しにくい箇所、および注目すべき写本の箇所が明らかになった。

現代語訳作成に当たっては、上記4書に書かれた訳注、および石田一良訳注『愚管抄 巻七』（丸山眞男編『日本の思想6 歴史思想集』筑摩書房、昭和47（1972）年所収）、大隅和雄訳『愚管抄』（講談社、2012年）、森新之介「慈円『愚管抄』巻第七今訳浅註稿」（早稲田大学高等研究所紀要、巻10、2018年、pp.69-99）の訳注を批判的に検討し、本文の句読点の箇所も再検討し、本文の問題点と先行研究（訳注）の問題点を指摘し、新たな注釈と現代語訳（試訳）を完成させた。意味を確定し難い箇所（解釈が分かれる箇所）については、両論を併記して、公の議論に資するという形での公開とした（神奈川大学学術機関リポジトリ『『愚管抄』—問題点と試訳（3）』）。先行研究すべてにわたっての批判的検討の上に、本文を詳細に読み解くことによって新たな知見を数多く提示することができた研究成果として、学術的な意義は大きいと考えている。

また、『日本古典文学大系 愚管抄』をすべてデータ化することができた。そのため、「道理」などのキーワードに関しては容易に検索できるようになり、注釈・現代語訳の参考にすることができた。しかし特定語句の索引は語句選定から行う必要があり、全巻についての議論を前提とするため今後の課題とした。

##### (2) 慈円の思想構造の解明

以下、研究分担者の専門分野からそれぞれに慈円の思想構造の解明を試みた成果を報告する。研究の目的に沿った形で一定の成果があり、新たな知見や見通しを得ることができた。

① 僧としての慈円における、成仏を目指す超俗的な志向と、歴史的現実の世俗救済（慈悲）志向との矛盾的思想構造については、『愚管抄』を著した動機とも密接に関係するため、重要な問題である。手がかりとして、研究分担者・柏木が、慈円の思想の先駆的表現が見られる『今昔物語集』を読解し、とくに天竺部の仏伝中、下天・托胎から成道・教化開始に至る諸説話に即し、釈迦仏の智慧・慈悲の描かれ方について、上求菩提・下化衆生という菩薩のあり方との関係を検討した。特に巻第二の譬喩譚に即し、衆生を阿羅漢たらしめる仏の智慧の内実やその獲得過程、行使様態について検討し、仏の知によって明かされる衆生の存在構造、仏の教化活動の本質とその前提条件、教化活動を通じて示される仏の知の特質について研究会で発表し、慈円の思想との関係について議論することができた。また、柏木は、釈迦仏出生時を原点として、天竺・震旦・本朝三国に生起する全事象を釈迦仏教化の展開史と捉える歴史観についても発表し、研究会で慈円の歴史観との関係を議論した。

2017年度に実施した京都研究合宿では、慈円が修行の場所とした比叡山の諸寺、特に無動寺周辺を調査し、慈円の思想を理解する上での示唆を得ることができた。しかしその後、コロナ禍のため現地調査および叡山文庫での資料蒐集は実施できなかった。

② 『愚管抄』は「道理物語」とも呼ばれるように物語的な語りとなっている。その語りの特質から慈円の思想を解明すべく、研究分担者・吉田は、古代の『古事記』・『源氏物語』、中世の御伽草子・説経節、近世の浄瑠璃・復古神道の語りについて検討した。結論として、日本における物語という形式は仏伝由来の個という観点を、歴史書由来の編年体という方法で語ることにより、壮大な歴史を描くようでもいながらも、あくまで個に重きが置かれていくものであるとした。そのことから、慈円のまなざしが個々の人間に向いている（いわば慈悲的なまなざしを持っている）がゆえに、『愚管抄』が物語的な形式で書かれたのではないかとの見通しを得た。

③ 『愚管抄』は鎌倉武士政権と朝廷との対立を回避しようとする意図をもって書かれている。朝廷側（院・天皇・貴族）にとって武士とはいかなるものとされていたのか、そして慈円は武士の台頭をどのように捉えていたのか。研究分担者・栗原は、『愚管抄』に表現された武士の現存を探究すべく、後世の武士道書（『葉隠』）に対する読解を進めた。その結果、安定した治世を背景とするがゆえに激しく希求された『葉隠』における戦闘的理念と、やはりその戦闘の本質において貴族・僧侶とは一線を画した『愚管抄』における武士の現存という、時代を超えた武士の在り方の比較照合を課題として意識するに至った。

(3) 『愚管抄』に描かれた“神仏共存神話”の解明

① 研究代表者・上原は、仏教移入以前の神観念が仏教や儒学の受容によってどのように変容しつつも持続していったのかについて、古代から近代までの思想を神・仏・天といった形而上的原理の変遷として原理的に考察し、特に『愚管抄』の“神仏共存神話”と中世神道理論および中世神話との原理的な比較を行った。これは、“神仏共存神話”の解明にとどまらず、日本思想の基軸の解明につながる研究成果である。また上原は、中世の説経節「小栗判官」を読解し、中世的な神仏共存の物語（本地物）と記紀神話以前の古代神話との関係について考察し、神仏共存的な神話・物語の射程の広さに気づくことができた。さらに、記紀神話に見られる神信仰・神観念の二重性（『古事記』的な神観念と『日本書紀』的な神観念）が、『愚管抄』の「道理」の諸相と関係があるのではないかとの見通しを得た。中世の仏教思想研究についても新たな観点を導入し、慈円と関係の深い法然等の浄土思想を古代の神信仰の文脈からとらえ直すべく考察を深めた。

② 研究分担者・吉田も“神仏共存神話”の解明に取り組み、最終年度には、神の思想から神仏習合思想（あるいは“神仏共存神話”）を捉えるのではなく、逆に神仏習合思想から神の思想を捉え直す方が生産的であるとの見通しを得た。記紀神話も、仏教の影響のもとに作成されたと考えられるためである。

以上の研究成果は、多くの論文、書籍、学会発表等で公表してきたが、公表できなかった成果に関しては、今後公表していく予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 上原雅文	4. 巻 200号
2. 論文標題 「幕末長州藩の思想」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『人文研究』	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 吉田真樹	4. 巻 68号
2. 論文標題 「提題 『源氏物語』という根源（日本倫理学会第六十八回大会 主題別討議報告「物語という方法」）」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『倫理学年報』	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 吉田真樹	4. 巻 7号
2. 論文標題 「『曾根崎心中』の恋（上）」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『パラゴネ』	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 栗原剛	4. 巻 第68集
2. 論文標題 「近松心中物における情死と救済」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『倫理学年報』	6. 最初と最後の頁 67-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田真樹	4. 巻 第68集
2. 論文標題 「『源氏物語』という根源」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『倫理学年報』	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田真樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 「『葉隠』の武士言語 「候」の射程について」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『定本 葉隠〔全訳注〕上』(筑摩書房)	6. 最初と最後の頁 573-582
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原雅文、柏木寧子、吉田真樹、栗原剛、佐藤正英	4. 巻 -
2. 論文標題 「『愚管抄』 問題点と試訳(2)」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神奈川大学学術機関リポジトリ <a href="https://kanagawa-u.repo.nii.ac.jp/">https://kanagawa-u.repo.nii.ac.jp/</a>	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田真樹	4. 巻 9号
2. 論文標題 「『曾根崎心中』の恋(中)」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『パラゴネ』	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 栗原剛	4. 巻 29巻
2. 論文標題 「『葉隠』における覚悟と実践」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『山口大学哲学研究』	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上原雅文、柏木寧子、吉田真樹、栗原剛、佐藤正英	4. 巻 -
2. 論文標題 「『愚管抄』 問題点と試訳 (3)」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神奈川大学学術機関リポジトリ <a href="https://kanagawa-u.repo.nii.ac.jp/">https://kanagawa-u.repo.nii.ac.jp/</a>	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 吉田 真樹
2. 発表標題 「座標軸としての仁斎」
3. 学会等名 第11回倫理学・日本倫理思想史研究会 (神田外語大学上野研究室)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 栗原剛
2. 発表標題 「近松心中物における情死と救済」
3. 学会等名 日本倫理学会 (第69回大会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田真樹
2. 発表標題 「『源氏物語』という根源」(第69回大会)
3. 学会等名 日本倫理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田真樹
2. 発表標題 「『初稿 倫理学』の問題点 日本倫理思想史の立場から」
3. 学会等名 科研費(東京大学)公開研究会「和辻倫理学の形成 『初稿 倫理学』をめぐって」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 栗原剛
2. 発表標題 「『愚管抄』巻第七における「君臣合體」の趣意 附「文武兼行」の「威勢」への疑義」
3. 学会等名 2021年度9月研究会(令和2~4年度 科学研究費補助金・基盤研究(C))「神・仏・天共存の原理に関する倫理学的研究 日本思想の基軸の解明」(課題番号20K00038, 研究代表者:吉田真樹)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上原雅文
2. 発表標題 「「日本思想の基軸」をめぐって」
3. 学会等名 2021年度9月研究会(令和2~4年度 科学研究費補助金・基盤研究(C))「神・仏・天共存の原理に関する倫理学的研究 日本思想の基軸の解明」(課題番号20K00038, 研究代表者:吉田真樹)
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 柏木寧子
2. 発表標題 「『今昔物語集』における釈迦仏 その転法輪相をめぐって」
3. 学会等名 2021年度3月研究会（令和2～4年度 科学研究費補助金・基盤研究（C）「神・仏・天共存の原理に関する倫理学的研究 日本思想の基軸の解明」（課題番号20K00038，研究代表者：吉田真樹））
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤正英
2. 発表標題 「『現存の倫理学』による「日本思想の基軸」」
3. 学会等名 2021年度3月研究会（令和2～4年度 科学研究費補助金・基盤研究（C）「神・仏・天共存の原理に関する倫理学的研究 日本思想の基軸の解明」（課題番号20K00038，研究代表者：吉田真樹））
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 佐藤 正英	4. 発行年 2019年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 259頁
3. 書名 『世阿弥 風姿花伝』	

1. 著者名 上原雅文、伊坂青司、村井まや子、鳥越輝昭、山本信太郎、坪井雅史、大川真由子、小熊誠	4. 発行年 2019年
2. 出版社 御茶の水書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 『自然・人間・神々』	

1. 著者名 木村純二、佐藤淳一、藤村安芸子、頼住光子、宮村悠介、飯嶋裕治、板東洋介、板橋勇仁、吉田真樹、原浩史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 『和辻哲郎の人文学』	

1. 著者名 山本常朝・田代陣基著、佐藤正英校訂、吉田真樹監訳注	4. 発行年 2017年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 612
3. 書名 『定本 葉隠〔全訳注〕下』	

1. 著者名 山本常朝・田代陣基著、佐藤正英校訂、吉田真樹監訳注	4. 発行年 2017年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 522
3. 書名 『定本 葉隠〔全訳注〕中』	

1. 著者名 山本常朝・田代陣基著、佐藤正英校訂、吉田真樹監訳注	4. 発行年 2017年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 582
3. 書名 『定本 葉隠〔全訳注〕上』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	柏木 寧子 (Kashiwagi Yasuko) (00263624)	山口大学・人文学部・教授  (15501)	
研究分担者	吉田 真樹 (Yoshida Masaki) (20381733)	静岡県立大学・国際関係学部・教授  (23803)	
研究分担者	栗原 剛 (Kurihara Gou) (50422358)	山口大学・人文学部・准教授  (15501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	佐藤 正英 (Satou Masahide) (90083708)	東京大学・文学部・名誉教授  (12601)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関